

東淀川区区政会議 教育・子育て部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 4 月 21 日(金)午後 7～9 時。東淀川区役所 3 階 301・302 会議室
出席者 教育・子育て部会委員 11 名、他部会委員 2 名

議題 1 平成 29 年度教育・子育てに関する事業進捗状況（報告）

（平成 29 年度運営方針（経営課題 3）について）

○今までの区政会議の意見が様々な部分に反映されていると思う。

（3-3-1 居場所づくり・学習支援事業の事業内容について）

○学習支援だけでいいのか？この部会は自尊感情を高めるための居場所づくりに取り組んできた。学力向上は当然だが、自尊感情向上には精神的な支援についても必要では。

- ・学識経験者の研究からも、他人と触れ合う機会がたくさんある子は、自己承認・自己肯定感につながるかとされている。共稼ぎなり一人親のご家庭など、自分がほっとできるような居場所がないお子さんに地域ぐるみで関わっていただき、その子が大人と接する中で自己承認・自己肯定感を向上していくきっかけづくりにしていきたいという思いで始めている事業である。
- ・学習支援の進め方もいろんな視点が必要。部会でもご意見いただきたい。

（3-3-1 居場所づくり・学習支援事業のアドバイザー事業者について）

○アドバイザー派遣の事業者について、東淀川区としてどういう視点で業者選定したのか。また現在選ばれている業者名は。

○価格だけでなく、内容、実績も考慮して、東淀川区の特徴をとらえた業者を選定しているのか。

○こどもの居場所の営業時間帯はどうなっているか。例えば夏休みや長期休暇、日曜日など。

○学校の敷地を使って実施してもいいのか。

- ・29 年度の事業者は、共同体で、「関西こども文化協会」、「一般社団法人コアプラス」で構成。事業内容については仕様書や募集要項に定めており、居場所の開設と運営にかかる助言全般。人材や資金の面やどのようにこどもたちの気持ちをつかみ居場所にいやすくするか、大人との人間関係をつくるかといったようなコミュニケーションの留意点なども助言する。今年度は、助言内容等を手引き書にまとめたり、ホームページ上であげたりして、次年度に活用できるようにするなど取組みを深めていく。
- ・選定については、入札ではなく、公募型プロポーザルで行った。区が提示した条件に沿った企画であることに加え、東淀川区の地域の状況、こどもへの理解があるかについてや、人材確保、資金計画の提案などを、外部選定委員が採点し、最高得点の事業者と契約した。
- ・居場所の運営については、地域や団体が自主的に運営していただくのを区が支援するという内容なので、一律なものではない。それぞれの地域性や、こどもたちの状況、様々なニーズや資源を考慮し、それぞれに合った形で進めていただきたいと思っている。
- ・今回の事業は、民間施設活用の学習支援。今されている学校での取組みは相談のうえ進めたい。

（3-5-2 「校庭等の芝生化及び学校を活用した地域連携事業」について）

○芝生の維持管理・整備や、はぐくみネット事業、生涯学習ルーム事業、学校体育施設開放事業にかかる費用の金額を提示してほしい。

- ・芝生化事業は約 1,000 万円。はぐくみネット事業・生涯学習ルーム事業はそれぞれ約 200～300 万円。学校体育施設開放事業は約 400 万円。

議題2 今後取り上げるテーマについて

○テーマを絞り全員で議論するのではなく、テーマごとに分けて議論した方がよいのではないかと。

→ 部会方向性提言の柱に沿って『子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて』と『すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」の2つのテーマに分かれて自由討議。

「子どもとおとなが互いに元気になれるまちづくりについて」チーム（居場所づくりについて）

○子どもと大人とのコミュニケーションを育てることが重要。

○子どもが一番集まりやすいのは子ども食堂。子ども食堂が一番とつきやすい。

○学力向上の前にまずお腹を膨らませてから。お腹が減っていると勉強ができないし、体力もつかない。子ども食堂は地域で中核になる人がいないと難しい。他区の事例も紹介してほしい。

○まずはスペースを作って、ご飯は難しくても、子どもたちがここにいけば安心できるし、楽しい、お母さん一緒に行こうとなるような暖かい居場所づくりが大事。

・菅原の子ども食堂を実施している方に運営ノウハウや課題を教えてもらうのもいい。現在、子ども食堂は区内に7箇所あって、それぞれに特徴があるので、1つに絞って講師をお願いするのではなく、いろいろな運営主体に来てもらったほうがいい。

「すべての子どもが「生きる力」を身につける子育て、「共育」のまちづくり」チーム （学力・体力向上、保護者の子育て力向上について）

○これまでは問題のある子について議論してきたが、普通の子に対しても支援の目を向けるべき。

○勉強がおもしろくなるきっかけづくりができれば成績の向上につながる。テスト前などに「テストでいい点取ろう学習会」をテスト前に行ってはどうか。PTAでも話し合っている。

○トップアスリート授業を受けた後の子どもたちはきらきら度が違う。そんなすごい講師を区民ホールに呼んで学習会をしたら、頑張るきっかけになるのではないかと。英語でも運動でもいい。

○中学生ウルトラクイズ大会や百人一首大会などは、一生懸命勉強して来ている。好きならばやる。学校の勉強でも1学期に学んだことから出題されるクイズ大会など実施すると面白い。

○夢のない子が増えた。勉強とは別に、身に付けたほうがいい能力がもっとある。

・家庭的にしんどい子などの施策は中学校勉強会。中の下くらいの子が伸びる場づくりが居場所事業の狙い。ただ、負の連鎖が多い状況が昨年生活実態調査でも出ておりしんどい子の議論も必要。一番しんどい子だけでも400人くらいいる。対応でききれていない。

・絵本読み聞かせなども重要と考えるが、読むのがしんどい家庭も。イギリスの調査では、裕福度と子どもへの声かけ・褒める回数が関連しているという結果。声かけや褒めた回数を考えていくことができないかと思っている。